

2020年 ICRC 活動報告より

FACTS AND FIGURES

数字とグラフでみる ICRC の活動

ICRC の 1 日の平均



44,850人

シリア：衛生環境が整備され、安全な水を受け取りました



1,343人

イエメン：食料支援を受けました



2,327人

マリ：生計に必要な種子、飼料、農具を受け取りました



772人

ミャンマー：生計に必要な現金支給や職業訓練を受けました



305人

アフガニスタン：障がい者向けのリハビリテーションサービスを受けました



3,079人

ウクライナ：医療施設で診察を受けました



150人

イラク：収容所で訪問を受けました



714件

コロンビア：家族間通話が実現しました



186回

ニジェール：様々な病気に対する予防接種を実施しました

2020年の活動規模

 **18,827人**

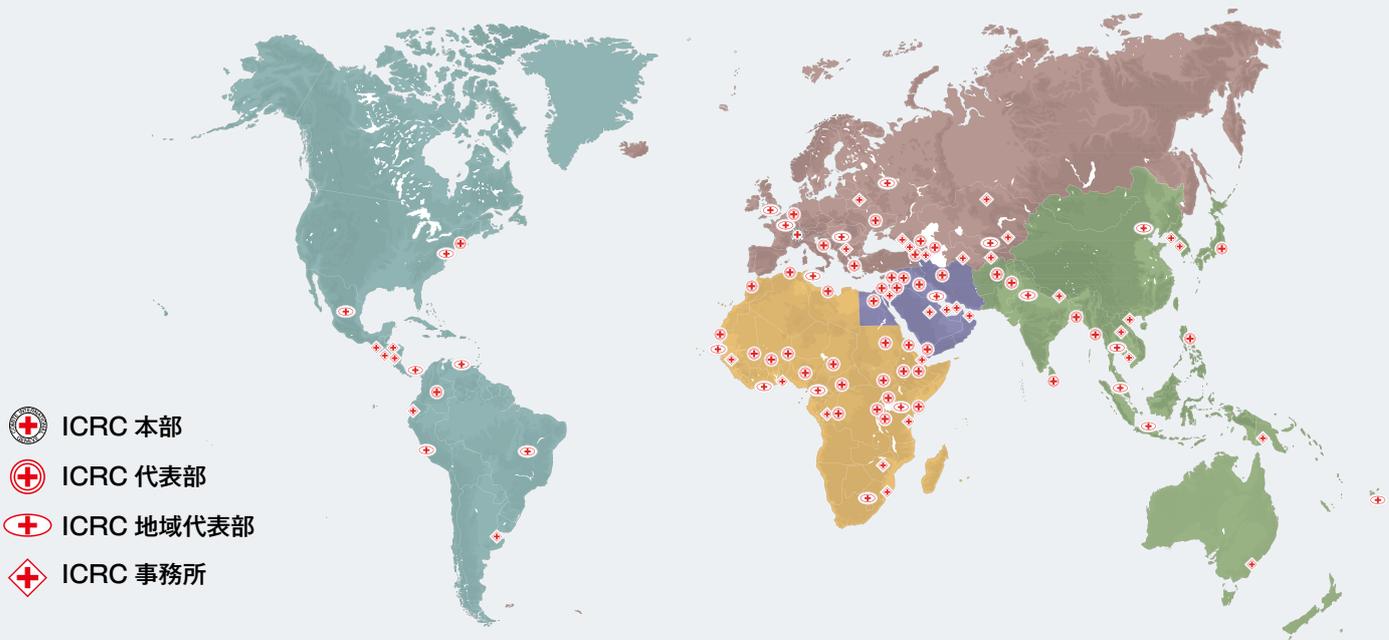
 **103カ所**

ICRCの職員数

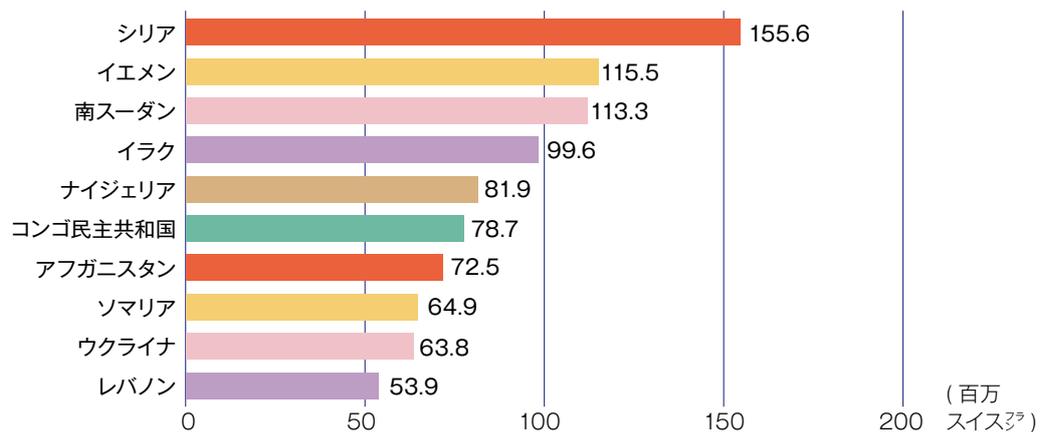
ジュネーブ本部	1,047人
フィールド	17,780人
▪ 現地要員	15,270人
▪ 国際要員	2,510人

地域別 ICRC の拠点数

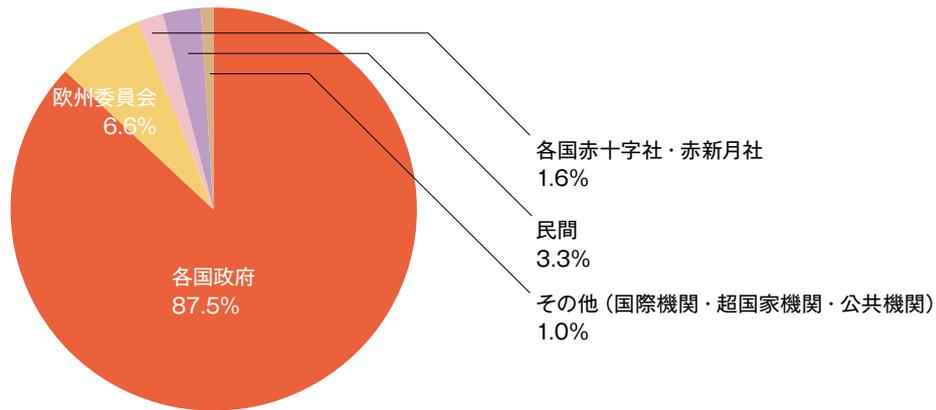
アフリカ	33
南北アメリカ	14
アジア大洋州	21
ヨーロッパ・中央アジア	21
中東	14



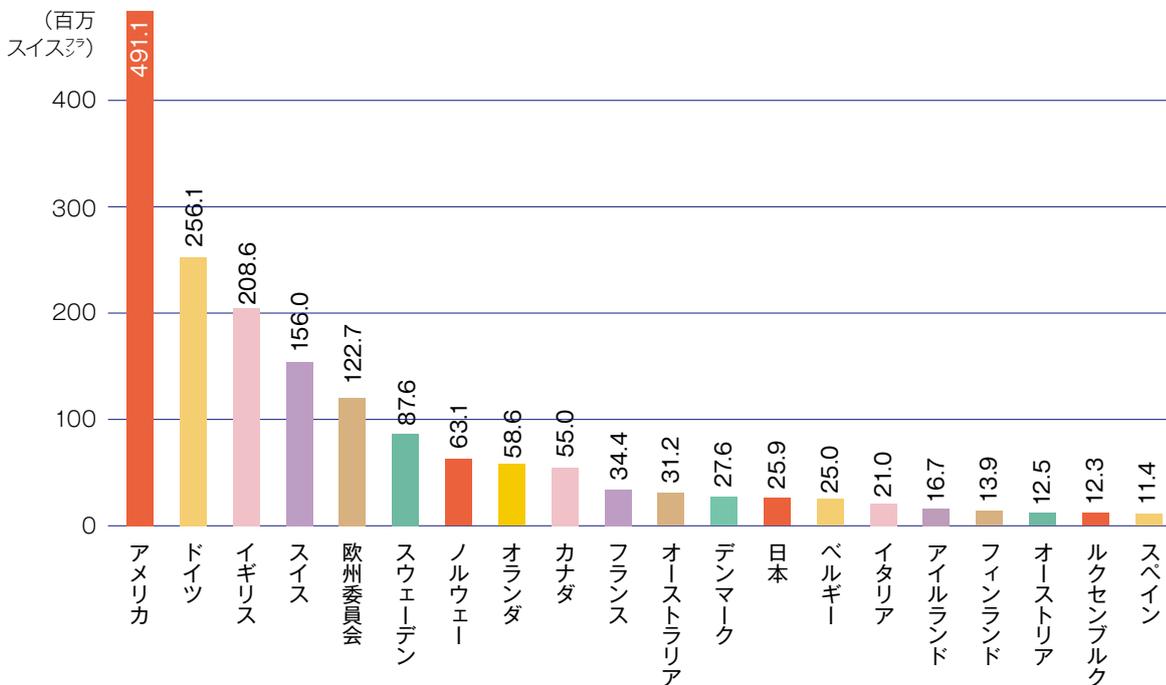
活動規模 上位10カ国・地域



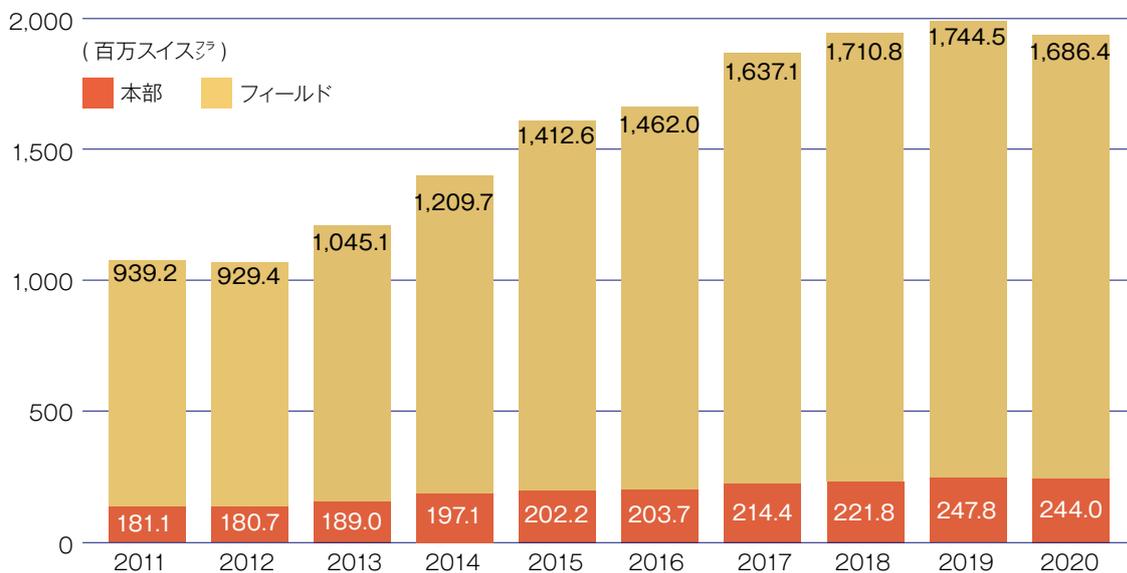
ICRCの資金源



拠出額 上位20カ国



過去10年の活動費推移



1 スイスフラン = 約 114 円 (2021年9月時点)



コロナ禍への対応

コロナ禍による影響や状況の変化に応じて態勢や活動を見直し、医療インフラや清潔な水の確保のための支援を加速させた他、衛生状態の改善など感染症対策を意識した具体的な対応を迅速に開始しました。活動地におけるコロナ対策で、従来の援助が制限されることもありましたが、人道支援や保護を必要とする人々の基本的なニーズを満たすことに加えて、命や生活を守るためのライフラインの確保と提供に努めました。



家族の連絡回復・再会支援

13万6353通(うち1万1762通は被拘束者から)の赤十字通信が寄せられ、12万2140通(うち9503通は被拘束者宛)を届けました。また、新型コロナウイルス感染症専用の病棟や隔離施設にいる人、感染症対策により家族と面会ができない被拘束者なども含む、150万4199件の家族間通話を支援しました。さらに、保護者がいない、または保護者と引き離された子ども1981人(うち797人は女児)を登録。その中には元子ども兵士102人も含まれます。1049人が家族との再会を果たし、7974人の消息や安否が判明しました。



法医学

遺体の適切かつ尊厳を持った管理と、行方不明者の捜索や保護を目的とした法医学サービスをおよそ80の国と地域で実施。2917人の遺体の移送、返還を行いました。



被拘束者の訪問

78の国や地域の1043の収容施設において86万94人の被拘束者を訪問し、2万1677人と個別に面談しました。うち1026人が女性、995人が未成年、1339人が民間人でした。



生計の安定

社会的に弱い立場にある個人や家庭、コミュニティの経済的安定を目的とした支援を行いました。国内避難民や難民、支援の届きにくい遠隔地に暮らす人々、収容され自由を奪われた人々など、421万4606人に対して食料を配付。699万1691人に衛生キットや生活必需品を提供しました。520万9767人が自活・自給に向けた食料生産のための支援を受けました。14万155人が自活や就労機会の確保を目的とした職業訓練を受けました。



水と住宅

ICRCのエンジニアが給水・衛生施設などの重要なインフラ建設業務を展開し、3496万2961人が恩恵を受けました。うち3406万2998人は国内避難民、難民、帰還者、地元住民で、89万9963人は被拘束者でした。また、約1000万人が新型コロナウイルス感染症予防を目的とした様々なプロジェクトの恩恵を受けました。



医療支援

599カ所の病院を支援。そのうち、101の病院で、武器で負傷した1万9033人と妊産婦5万608人を診療、13万2736件の外科手術を行いました。地元コミュニティに根付いた保健事業も展開し、遠隔地やアクセスが困難な地域にも医療を提供。支援した659のプライマリヘルスケア施設では、753万4552件の治療相談に対応し、年間利用者数は2240万6374人でした。また、戦闘下での悲惨な体験からくる心理的負担を緩和するため、4万8154人が心のケアを受けました。コロナ関連では、167の病院およびイェメンに1カ所ある感染者病棟で、患者の治療を支援しました。



障がい者支援

327のプロジェクトを通じて、障がい者リハビリテーションサービスを29万8460人に提供しました。2万1874の人工椅子と10万4356の整形器具を生産・納品。また、7171の車椅子と姿勢矯正を目的とした補具を提供し、その多くを当該国内で生産しました。また、社会参画の実現に向けて5235件の支援を行いました。



人道法の普及

ICRCの主催する国際人道法(IHL)関連のイベントやトレーニング950件超に、124カ国から参加した軍隊や警察、非国家武装組織関係者およそ6万800人が参加しました。法律家や政策立案者を対象に、気候問題や性暴力、非国家武装グループとの対話等をテーマにオンラインのIHLコースを実施。640人が参加し、約500回視聴されました。また、世界各地には115のIHL国内委員会が存在し、それぞれの国で関心の高い人道問題について定期的に話し合いの場が持たれています。



多種多様なセクターとの関係構築

セミナーやイベントの開催を通して、IHL関連の議論の活性化や、現場での人道支援を向上させるツールや方策の開発などに力を入れています。外交、学術、人道、軍の関係者約3200人を対象に6件のウェビナーを実施し、約4900回視聴されました。コロナ禍での人道スペースをテーマとしたオンラインワークショップには、国際機関、NGO、各国の赤十字社、赤新月社から780人が参加し、約2800回視聴されました。



武器汚染への対応

地雷や不発弾が残る52の国や地域で暮らす人々を支援。特に地雷については、爆発の危険性にまつわる教育活動や関連データの収集および分析、除去活動、地元の地雷撤去グループへのトレーニングなどを実施。国連やNGOとも協力して地雷対策を進展させ、強化しました。

赤十字国際委員会 駐日代表部
〒107-0052 東京都港区赤坂1-11-36
レジデンスバイカウンテス #320
Tel: 03-6628-5450
Email: tok_tokyo@icrc.org
jp.icrc.org

facebook.com/ICRC.jp
twitter.com/ICRC_jp



ICRC